

第1章 検討の目的

1-1 目的

道路整備の費用対効果の検討や環境アセスメントの手続き等、道路政策を展開していくにあたり、将来交通需要の推計は極めて重要である。

将来交通需要推計にあたっては、最新の社会経済情勢を踏まえたパラメータ設定や推計モデルの構築が肝要であり、それらを確定した上で推計を行うことが求められる。

現在のところ、平成 14 年 11 月に道路関係四公団民営化委員会において報告された推計値が最新の推計結果であるが、本業務においては、これまでの推計値と実績値を比較しながら、各種の交通調査結果を踏まえたパラメータ設定等、近年の社会経済情勢の動向を反映したモデル構築、及びそれらを用いた将来交通需要推計を行った。

更に、交通需要に対する燃料費等の影響に関しては、海外における計測事例をレビューした上で、我が国における分析モデルを別途構築し、将来交通需要への影響分析を行った。

なお、交通需要の動向分析、将来シナリオの検討、交通需要推計モデルの検討等の本検討で用いた統計データは、平成 20 年 11 月までに公表されているデータに基づいている。

1-2 検討内容

本報告書における具体的検討内容は下記の通りである。

(1) 近年の交通需要の動向（第 2 章）

将来交通需要を取り巻く社会経済指標や自動車交通需要の動向について分析し、将来交通需要推計モデルにおいて考慮すべき要因について整理した。

(2) 将来交通需要推計モデルの分析・検討（第 3 章）

将来交通需要フレーム算出の準備段階として、各種の交通調査結果や近年の社会経済情勢の傾向を踏まえた将来交通需要推計モデルを構築し、その信頼性、妥当性等を検討した。

(3) 燃料価格等の交通需要への影響の分析（第 4 章）

交通需要に対する燃料価格等の影響に関して、海外における計測事例をレビューした上で、我が国における分析モデルを別途構築し、交通需要への影響分析を行った。

(4) 有識者による幅広いご意見に基づく将来交通需要推計モデルの検証（第5章）

最新の将来交通需要推計モデルを構築するにあたり、有識者による専門的かつ幅広いご意見を取り入れることにより、新しい将来交通需要推計モデルの検証を行った。

(5) 将来交通需要推計フレームの構築及び今後の道路交通需要の分析（第6章）

上記の検討により構築される最新の将来交通需要推計モデルを用いて、将来交通需要推計フレームを算出するとともに、前回推計との比較・検証を行った。

その際、近年の燃料価格の高騰の影響を考慮したケースでの推計も行った。

(6) 今後の検討課題（第7章）

今後の道路交通需要の推移について評価・分析を行うとともに、今後の検討課題について整理した。